

# 琉球大学学術リポジトリ

## URGCC推進支援室の設置について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 裕輝, Nishimoto, Hiroki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41645">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41645</a>

# URGCC推進支援室の設置について

西本裕輝（大学教育センター・URGCC 推進支援室長）

## はじめに

現在、本学では新カリキュラム URGCC の 24 年度導入に向け、準備を進めているところである。URGCC は第二期中期目標・中期計画のキーワードと言えるものであり、全学的なカリキュラム改革を示している。よって、一部の教職員のみで推進できるものではなく、多くの教職員の協力が必要である。

そこで重要となるのが、取組の推進を支援し支える組織及びスタッフである。大学教育センターでは当初からそうした構想を持ち、それが後に URGCC 推進支援室の立ち上げに繋がることとなる。

ここでは、URGCC 推進支援室の必要性や設置された経緯について記述したい。

## 推進支援室の構想

URGCC 推進支援室の構想のモデルとなったのは、学内では大学評価センター及び評価室、教員免許状更新講習実施室であり、学外においては、広島大学高等教育研究開発センターの COE 研究員の制度である。

例えば、評価室は大学の第三者評価への対応というミッションを持ち、エビデンスの確保等、全学的な支援を行っている。スタッフとして、准教授 1 名、課長代理 1 名、係長 1 名、事務補佐員 1 名が配置されスタートした。

また、教員免許状更新講習実施室は、周知の通り教員免許更新制に対応するために立ち上げられた組織である。当初は準備室であったが、本格的に稼働するにともない、実施室となった。期間限定の組織であるかもしれないが、教員免許更新講習が続く限り設置するものである。スタッフは室長 1 名、再雇用の職員 1 名、事務補佐員 2 名である。

また COE 研究員は、プロジェクトが続く 5 年間のうちに、COE における研究を推進するための研究補佐を行う役職である。通常は博士課程を修了したばかりの若手研究者がその地位につく。広島大学高等教育研究開発センターでは 3 名の COE 研究員を雇用していた。

このように特定のミッションに対応するため、場合によっては期間限定で組織を立ち上げたり、スタッフを雇用することは一般的となっている。翻って URGCC の推進というミッションが存在したとき、たとえ期間限定であっても、それを推進する組織が必要である。そのような発想から、支援室の立ち上げ及び専属のスタッフの雇用ということを計画し、2010 年 10 月から立ち上がることになる。

## 支援室のスタッフと機能

支援室のミッションは、24 年度から導入される新カリキュラム URGCC を推進することである。当面の期間は、24 年度入学学生が卒業する 27 年度ということになる。

そのための業務は多い。主なものとしては、例えば、調査研究である。それにはエビデ

ンスの収集も含まれる。URGCC の7つの学習教育目標において、自律性や社会性を身につけることが謳われているが、そうした能力を学生がどの程度身につけたかを、学生対象の質問紙調査などを実施して明らかにする必要がある。少なくとも23年度中に1回、学生調査を実施し、現行の在学生の状況を把握し、新カリキュラム導入後、どう変化するかということと比較するためのエビデンスとしておく必要がある。

その他業務は多いが、教育システムの開発も重要な機能である。本学の教育はアメリカ型の大学をモデルとして始まった。そのため、アメリカから輸入されたFD、授業評価、シラバスなどの教育制度はいち早く導入した。現在の我が国の大学評価システム等も、アメリカの先進的なシステムの影響を受けていると言ってよい。

URGCCはその大学評価の観点から言えば、本学における第二期中期目標・中期計画の教育における重要なキーワードとなっており、計画終了後にどのような結果を出せるかが重要となっている。そうしたことと関連して、近年、アメリカのほぼすべての大学に設置されているIRオフィスは参考となる。これはアクレディテーションに対応するために設置されている組織であり、こうしたシステムを導入することも、URGCCを成功させる鍵となると思われる。

このように、海外の先進的なシステムを研究し、本学に導入できるかどうかを検討することも、支援室の重要な機能である。

次に、そのために必要なスタッフについて述べる。専属のスタッフとして構想していたのは、研究員1名と支援員（事務補佐員）1名である。

研究員はCOE研究員のように、研究者（教育研究の専門家）の立場から、プロジェクトの推進を行う役職である。本学においては助教に近い立場かもしれない。念頭にあったのは、大学院に在籍中もしくは修了して間もない若手研究者である。求められる能力としては、主に高等教育研究者の立場から、各種調査に関わり統計的な分析を行ったり、URGCCに関わる海外の教育改革の動きを把握し、本学への導入を検討すること、URGCCの目標を達成するために必要なFDシステムを開発すること等である。

一方、支援員は、事務補佐的役割を担うものであり、会議資料の準備・管理、会議の連絡・調整等、URGCCに関わる様々な事柄を処理する一方で、海外の最新の情報を収集・整理するための英語力も必要とされる。

このような条件をもとに選考を行い、多くの応募者の中から最終的には、研究員には東京大学大学院に在籍中の山田美都雄、支援員には親川真由子を採用した。山田研究員は、教育社会学を専門とする教育研究の専門家であり、調査研究にも精通している若手研究者である。一方、親川支援員は、本学の国際課での事務経験を持ち、二年間のアメリカ留学経験があるので英語にも堪能であり通訳もこなせる。上記の条件に合うよいスタッフが揃ったと思われる。

室長は大学教育センター副センター長の西本が兼務し、副室長（小田教務課長が兼務）を加えて合計4名で2010年10月に立ち上がった。

2010年3月には、ハワイ大学におけるIRオフィス等の調査を実施したが、後に詳述するように、専属スタッフの活躍により多くの有益な情報を持ち帰ることができた。

このようにして立ち上がったURGCC推進支援室であるが、名前のとおり、URGCCの推進について全学的に支援する組織である。今後は様々な問い合わせにも対応することに

なるだろう。参考までに下記に連絡先を記しておくので、機会がある度に利用していただきたい。

< URGCC 推進支援室連絡先 >

Tel 895-8742 または 2626

Fax 895-8742

E-mail: [dgurgcc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp](mailto:dgurgcc@to.jim.u-ryukyu.ac.jp)

担当：山田・親川

